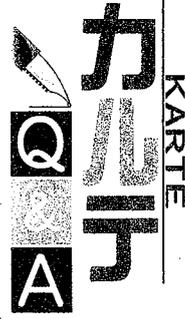


【問い】6年前、左目網膜に異常血管が
でき、ものがゆがんで見える「**滲出型加齢
黄斑変性症**」と診断されました。約2カ月
ごとに眼球注射の治療を受けています。こ
れまでに36本打ちましたが、一進一退です。
右目も悪化。他に治療法はないでしょうか。
(81歳、男性)

滲出型加齢黄斑変性症



五味文医師

薬変更、レーザー治療併用も選択肢

「**滲出型加齢黄斑変性**」は、
網膜の中でも、ものを見る上で
大切な黄斑という場所に生じる
病気です。加齢やストレスなど

野の中心が見えなくなり
治療は、相談者の方が受けて
いる「血管新生抑制薬(抗VE
GF薬)」の注射が一般的です。
新生血管の拡大を防ぎ、出血や
液の染み出しを抑制します。し
かし薬の作用期間が限られるた
め、繰り返し注射を受ける必
要があります。

今回の方は、2カ月に1回の
注射を6年も継続しているにも
かわらず、視力が低下してい
ます。病気の安定化が得られ
ないタイプかもしれません。加
えて右側の目も治療が必要な状
況となり、心配だと思えます。
滲出型加齢黄斑変性が両目に

併用したりするということもありま
す。ただし、いずれも高額です。
病気や目の状態によってどのよ
うな治療が適しているか、黄斑
疾患の専門医と相談してみてく
ださい。
(兵庫県医師会、五味文||西
宮市、兵庫医大眼科)
◇第1、3、4日曜に掲載し
ます。

により、黄斑の裏にある脈絡膜
から新生血管が生じます。この
血管はもろいので容易に出血し
たり、液が染み出たりして、黄
斑部の網膜を傷つけます。最初
はものがゆがんで見えたり、一
部がぼやけたりする程度です
が、網膜の障害が進行すると、視

新生血管がまだ小さく、網膜
の障害もそれほど進んでいなけ
れば、数回で視力の改善と症状
の安定が期待できます。しかし
網膜が既に傷んでいたり、薬の
効果が少なかったりすると、治
療を継続しても視力は回復せ
ず、症状の進行を遅らせる程度

生じることは珍しくありませ
ん。ご自身でも定期的に、片目
ずつ見え方の変化を確認して
ください。
今は数種類の抗VEGF薬が
あります。効果が少ない場合は
薬剤を変更したり、光線力学的
療法と呼ばれるレーザー治療を